

「令和3年度子どもに関わるボランティアのつどい・研修会」事業報告

1 事業名 令和3年度子どもに関わるボランティアのつどい・研修会

2 期 日 令和3年10月3日（日）

3 参加者 42名

4 研修日程

時 程	研 修 内 容
8：45	受 付
9：00	
9：10	
9：10	開 会 行 事（主催者挨拶）
9：40	研修1〈実践事例発表〉 「学生ボランティアの活動について」 福岡県立大学 人間社会学部 社会福祉学科 城ノ戸 翔 吾 氏 福岡県立大学 人間社会学部 公共社会学科 向 原 夏 輝 氏 福岡県立大学 人間社会学部 人間形成学科 吉 岡 佑 香 氏
9：50	研修2〈講話・演習〉 「“対話”で深めよう・つながろう」 三四郎の学校 事務局長 日賀 優一 氏
11：50	閉 会 行 事（閉会挨拶・諸連絡・アンケート記入）
12：00	

5 活動の実際

研修1

(1) 内容

研修1では、福岡県立大学の学生ボランティア3名から、学力支援や不登校支援等、子どもに関わるボランティア活動についての実践発表をしていただきました。「なぜ自分がボランティア活動を行っているのか」「活動から見えてくること」「子どもに関わる支援の意義や重要性」等、実際に子ども達と接して感じたこと、ボランティアにかける想いを発表していただきました。

参加者からは、学生ボランティアの活動に共感したり、考えさせられたりする姿が多くみられ、改めて子どもに関わるボランティアの重要性を認識していました。

(2) 活動写真



「学習支援」について実践発表をする大学生



メモをとるなど熱心に講話を聴く参加者

(3) 参加者の声

○学生たちは学生たちで、しっかりと自分の考えをもってすばらしいと思いました。「日本の未来は明るい」と本当に思いました。

○3人の大学生の活動がすごくすばらしく、「私も頑張ろう!」と思いました。たいへん勉強になりました。ありがとうございました。

○同じ思いで活動されている方々の話を聞くことができ、背中を押されたような気分になりました。

研修 2

(1) 内容

研修 2 では、「三四郎の学校」事務局長 日賀 優一氏から、ボランティア意識の向上とつながりづくり、「対話」によるコミュニケーションのスキル向上を目的として講話・演習を行っていただきました。今回の研修は、行政職員の他、地域学校協働活動推進員、子ども会指導者、読書ボランティア、大学生等、異業種・異年齢の方々が参加していました。

異なる立場の参加者が、実際に対話を行うことを通して、つながりを作ることができました。また、「お互いの意見を尊重すること」、「沈黙を歓迎することの大切さ」、「ほめることの大切さへの気づき」等、日賀さんが示した「対話」によるコミュニケーションのスキルアップのための知識・技能を習得することができていました。

(2) 活動写真



「対話」を行う時の配慮について学ぶ参加者



参加者同士で積極的に「対話」を行う参加者

(3) 参加者の声

- 人との対話がとても必要な事だと改めて気づきました。正解がなくても、会話の中で自分を更新することができることに気づきました。
- この研修会に参加して本当に良かったです。自分の考えてきたことにも賛同してくださったことは、とてもうれしかったし、グループで話した内容すべてが印象に残っています。
- 「沈黙を歓迎する」という対話のあり方は、今日のようなグループワークだけでなく、普段の子どもとの関わりの中だけでも実行したいと考えました。

6 全体をとおして

本研修は、地域や学校における子どもの教育活動、放課後支援、地域課題の解決等に関わる多世代の方々を対象に、みんなで対話を積み重ねていくことを通して、コミュニケーションのスキル向上や多様な主体が連携・協働した子どもに関する支援ボランティアの活性化に寄与するものでした。参加者からは「大学生の方の話を聞いて、もっともっとボランティア活動を行い、色々なことを学びたいと思いました。」「大学生のボランティア支援、人生の先輩の話など、将来を担う子ども達をもう一度しっかりと支援していかなければという気持ちになりました。」「コロナ禍ではあるが、対話型の研修を続けてほしいです。普段つながらない人とつながる場があるとありがたいです。」等の感想がありました。これらの感想からも、本研修会は、対話を積み重ねていくことを通して、コミュニケーションのスキル向上だけに留まらず、子どもに関する支援ボランティアの重要性を再認識する機会とボランティア同士のつながりづくりの場となり、非常に有意義なものとなったと考えます。